

スタートアップ！鳥栖シティ！

「ふるさと・しごと創生事業」

■ 目的「創業しやすい環境づくりを進め、新たな就業機会の創出を図る」

(地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金〔地方創生先行型〕事業)

鳥栖市における、これまで「しごと」づくりは、**地理的優位性を生かした企業誘致がリード**してきたが、新たな企業誘致だけではなく、地域から企業を興す**創業を支援**し、本市における雇用の場を広げていく。

創業に関しては、ゼロからの創業にとどまらず、**既存企業の新たな事業展開への支援**を通じて、本市における事業拡大の支援、**バラエティに富むだけでなく安定した雇用の場の創出**につなげていく。

■ 内容「創業支援・経営支援のワンストップ窓口『鳥栖ビズ』を設置」

平成27年9月1日 J R鳥栖駅東側のサンメッセ鳥栖に「鳥栖市産業支援相談室(愛称：鳥栖ビズ)」を開設。

鳥栖ビズでは、**一般社団法人佐賀県中小企業診断協会と連携**して、これから**創業**を考えている方、また、**新たな事業展開**を考えている中小企業者の方からの各種相談に対して、課題解決のための助言や各種支援制度の紹介等を無料でやっている。



鳥栖ビズでの創業支援相談の様子

■ これまで利用状況

相談件数：143件（平成27年9月～平成28年3月）

相談内容：創業に関すること、販路開拓、商品開発など

ふるさとテレワークで人を活かす！

「九州みらいジャンクション創出事業」

■ 事業概要（総務省「ふるさとテレワーク推進のための地域実証事業」採択事業）

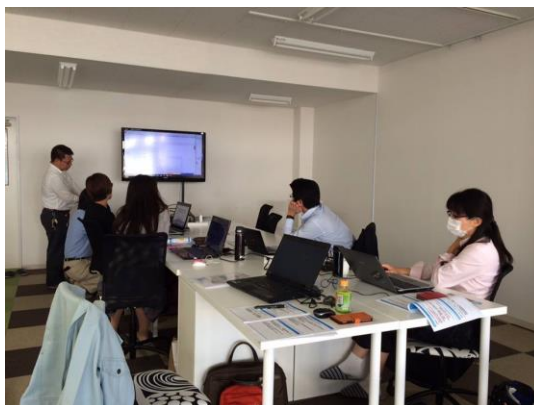
- 平成27年10月10日（土）JR鳥栖駅前の商店街に「さがんみらいテレワークセンター鳥栖」を開設。
- 同センターは、働きたいと願う誰もが利用できるシェアオフィス・コワーキングスペースであり、個人事業主の方には第2のオフィスとして、企業の方には九州進出の足がかりとして、学生の方には働く仲間を探す場として、使い方は様々。
- 株式会社パソナテックがIT系業務を行うサテライトオフィスに3～5名が移住。
- 女性のクラウドソーシング活用や学生インターンシップ等、地域住民が働きながらスキルアップできるコワーキングスペースを設け、将来的にはIT人材の組織化を目指す。
- 生活直結サービスでは、転入者を対象にした情報提供を充実させ、地域情報の不足を補うクラウドサービスを市民協働型で実施する。

■ 提案者（コンソーシアム）

佐賀県（代表団体）、株式会社パソナテック（代表団体）、鳥栖市、株式会社ローカルメディアラボ、国立大学法人佐賀大学、学校法人久留米大学、特定非営利活動法人価値創造プラットフォーム



開所式典（10月10日）



クラウドソーシング勉強会（10月14日）



開設チームとして名古屋都市圏から赴任した株式会社パソナテック・マネジャーの田上加那さん

「ふるさと・しごと創生促進事業」

(地方創生加速化交付金事業 平成28年度～)

“鳥栖発”創生総合戦略

重要業績評価指標 (KPI)

- 創業支援件数 (2020年までに200件)
- 有効求人倍率 (2013年0.95→2020年1.00)



鳥栖産業支援相談室 (鳥栖ビズ)

相談 支援

CASE1 創業予定者・農商工業者など

- 新しく事業を始めたい…
- 認知度の向上・顧客拡大を図りたい…
- 農産品の6次化を図りたい…



● 創業予定者・商工業者の
ITスキルの向上、ステップアップ

● 創業志向の高い地域特性を刺激

RESAS「創業比率」鳥栖市2.66%・全国79位(佐賀県平均1.63%)

● 個人事業型クラウドソーサー・
クリエイティブ人材の創業支援

● 店舗・事業所等の製品PR、
販路拡大に格好の場

● 市内で得られる「よそ者目線」、
自社製品へのフィードバック

● 市内への周遊性を高め賑わいを創出、
地場産業への波及



さがんみらい テレワークセンター鳥栖

CASE2 IT系就業希望者・Uターン希望者・育児中の女性など

- ITスキルを上げてテレワークをはじめたい…
- 新しい働き方で住みよさの高い鳥栖に移住したい…
- クラウドワーカーとして起業したい…
- ITを活用して農産品の販路を拡大したい

ITによる
営業スキルアップ

人と人とのつながり

好循環

■ 創業者が次の創業者を呼ぶ!
■ 創業するなら鳥栖シティ!

自社製品のPR

自社製品への
フィードバック

鳥栖で創業したい!



とす! トリップマルシェ (鳥栖プレミアム・アウトレット)

CASE3 市内農商工業者など

- ウチの自慢の逸品を知ってほしい…
- 自社製品への反応を探りたい…
- せっかくなら市内にも足をのばしてもらって、
新しい「ひと」の流れをつくりたい…
- 年間500万人の来訪者を市内に誘導したい…



始まる！新たな鳥栖の顔づくり 「鳥栖駅周辺まちづくり事業」

■ 鳥栖駅周辺まちづくり基本構想 「東西をつないで はじまる新次元 ～みんなで創る 新しい鳥栖～」

平成28年3月、鳥栖駅等の鉄道施設及び分断化されている中心市街地の東西の連携を図り、鳥栖駅周辺の利便性向上と、中心市街地の活性化を目指すための基本構想を策定。

基本構想は、**橋上駅・自由通路の整備、駅前広場リニューアル**による「鳥栖市の玄関口・鳥栖駅の整備」、「鳥栖駅西側中心市街地の活性化」、「鳥栖駅東側への拠点機能の導入」、「安全・安心・快適な回遊ネットワークの形成」の4項目を今後のまちづくりの基本方針とし、基本方針をふまえた鳥栖駅周辺土地利用構想を盛り込んだ。

■ 鳥栖駅周辺まちづくり検討委員会の設置

目的：基本構想及び基本計画の策定にあたり、広く有識者の意見を聴取するもの

委員構成：学識経験者2人、各種団体代表7人の合計9人 オブザーバー：佐賀県、JR九州

■ 今後のスケジュール

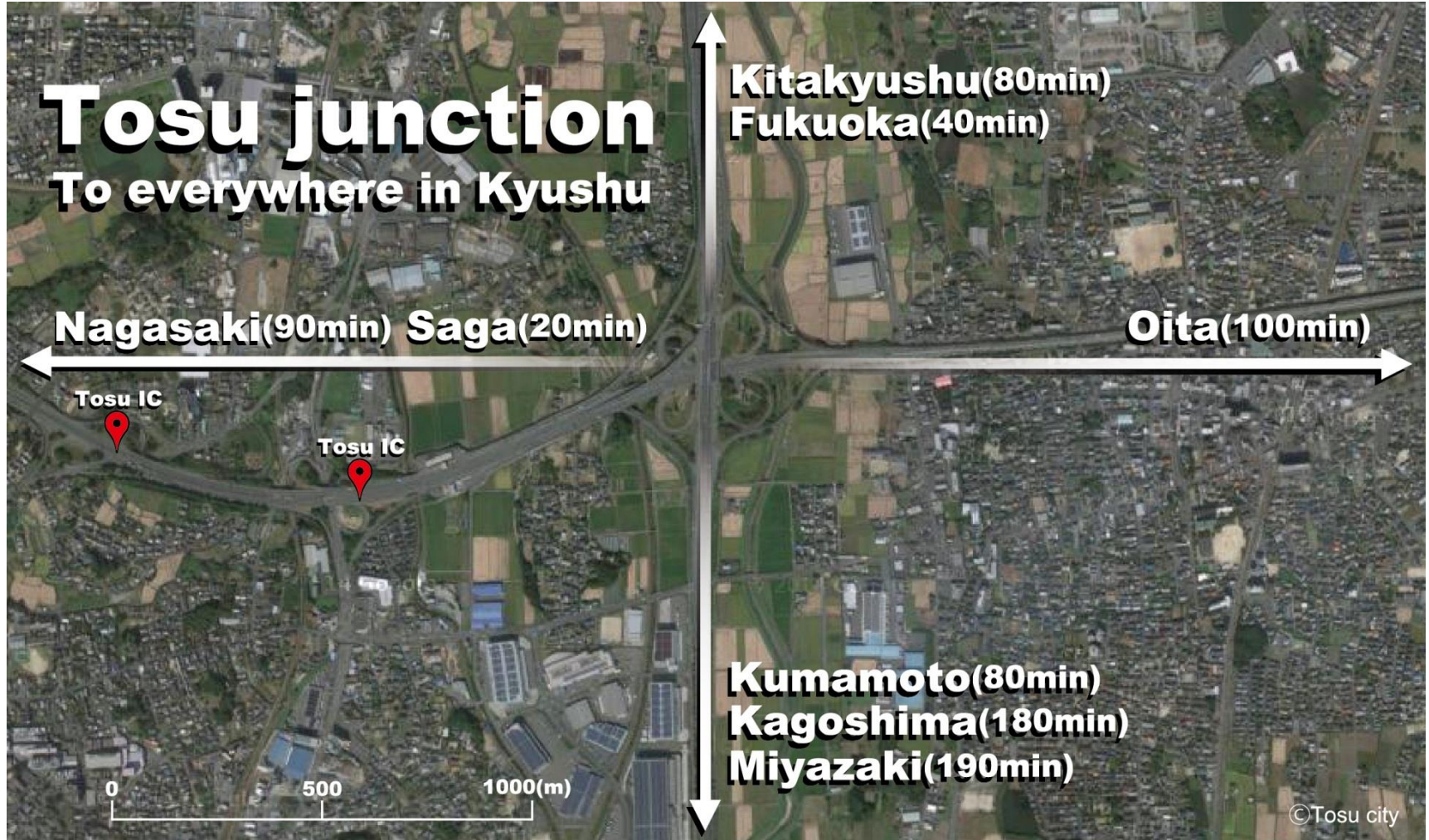
平成28年度に「基本計画」、平成29～30年度に「基本設計」を策定予定



国家戦略特区 「九州ブランディング拠点創生特区」 ~県境を越えて交通結節機能を最大化。すべては九州のために~

■ 概要

農振除外の手続きについて、鳥栖 J C T に近接する鳥栖 I C から概ね 4 km 以内の地域であって、区域計画で指定された場所に限り、基準（5 要件）の弾力化を求める。



その他の取り組みについて

■ こどもが多い鳥栖だから「保育所整備推進事業」

「鳥栖市子ども子育て支援事業計画」の公表に基づき提案された、保育所新設3園、認定こども園への移行1園について事業採択。

平成29年度4月の開所に向け、合計4施設の整備を行う（増加定員数260人）とともに、既存保育所における定員増、幼稚園から認定こども園への移行を支援し、増え続ける保育需要に対応していく。

■ 鳥栖で学びたい！「教科『日本語』」

今年度から全市立小中学校で始まった教科「日本語」。九州では初の取り組みで、市民や全国の教育関係者から非常に高い関心が寄せられている。最近では、平成27年10月放送の「世界一受けたい授業」（日本テレビ）において教科書の内容や学校の様子が紹介された。

■ 室内プールで多世代交流！「（仮称）健康スポーツセンター整備事業」

子どもから高齢者まで、年間を通じた市民の健康・体力づくりの新たな拠点として、平成30年度供用開始予定。

屋内施設（通年利用）：1F）25m温水プール、幼児プール、ジャグジー、更衣室、シャワー室、浴室、事務室等 2F）トレーニングルーム、スタジオ
屋外施設（夏季利用）

スライダープール、幼児プール、屋外専用更衣室、シャワー室等



■ 水を大切に「水道料金体系の見直し」

見直し内容 使用水量5立方メートルまでの場合は、基本料金から500円を減額する。

実施時期 平成28年2月分より料金改定を実施

■ 通学路に安全と思い出を「小学校周辺安全対策整備事業」

今年度までに、各小学校から半径300m範囲内について全39路線のうち、22路線が整備完了予定。さらに、年度内に危険度等の評価基準を再点検した新たな整備計画を作成し、平成28年度以降、未整備14路線を中心に、小学校から半径500mまでに範囲を拡大して整備予定。